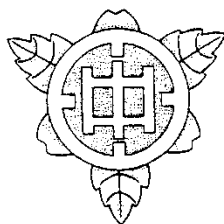


# 学校だより



2月号

令和4年1月31日

さいたま市立田島中学校

〒338-0837

さいたま市桜区田島10-13-1 TEL 048(864)3451

<http://tajima-j.saitama-city.ed.jp/>

## 【学校教育目標】

きれいな学校・調和のとれた人づくり

- 自ら学ぶ生徒（知性を磨く）
- 心豊かな生徒（感性を研ぐ）
- 活動力のある生徒（体を鍛える）

## 食について考えよう

校長 市川 敏行

1月の学校給食週間では、給食委員会が実施したアンケート結果をもとに献立が作成されましたが、私も生徒会誌「たじま」のあいさつで、フードマイレージについて書かせていただきました。フードマイレージとは、食べ物がつくられた場所から、食べる場所まで食物を運ぶときに、船やトラック、飛行機などに使われる燃料と、そこから排出される二酸化炭素の量を数値化した指標です。日本の食料自給率は37%、先進国の中でも日本は食料品のほとんどを海外からの輸入に頼っています。日本は、世界でも高いフードマイレージの数値を示している国です。

しかし、今回の新型コロナウイルスの影響で世界の食料事情は大きく変わってきました。日本の食料輸入相手国第1位のアメリカと第2位の中国では、新型コロナウイルスの影響により食品工場の閉鎖や労働力の不足がおこり、食料生産量が減少しています。そのために今後輸出量を減らす可能性があり、品不足や値上げ等、私たちの食卓にまで影響を及ぼすことが考えられます。

食料自給率の向上は必要ですが、この問題は個人の力ですぐ変わるものではありません。私たちが今できるのは、まだ食べられるのに捨ててしまっている食品（食品ロス）を減らしていくことだと思います。食料輸入量が減少している今だからこそ、目の前の食料を大切に無駄なく食べきることは、少しずつではありますが食品輸入量の減少になり、結果として自給率の向上につながります。

新しい取り組みとして、ヨーロッパ野菜の栽培が10組の生徒や栄養教諭の先生を中心に行われ、収穫された野菜は給食として全校に提供されました。学校の敷地内でできた野菜はフードマイレージで言うと限りなく0に近い食物、地球にやさしい食べ物と言ってよいと思います。食物を運ぶときに排出される二酸化炭素も出さないの、地球温暖化の防止にもつながるでしょう。田島中学校の小さな学校ファームから日本の将来や世界とのかかわりを感じてもらい、フードマイレージの数値を少しでも減らしていこうと考えることが、地球や日本にとって大切なことだと思います。

さいたま市は「SDGs未来都市」に選定されています。持続可能な開発目標（SDGs）とは、国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のことです。目標2「飢餓をゼロに」は、文字通り飢餓で苦しむ人をなくすことが目標であり、食料を安定的に確保し、人々に供給できる世の中を目指します。食品ロスやフードマイレージの数値を減らすことこそ、世界中の人々の食の安定や生産に適した環境づくりにつながる第一歩ではないでしょうか。